

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ことばを さがそう」 教材名「ことばを さがそう」

2 単元の目標

音節と文字との関係に気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)イ）

身近な言葉を音に分け、音と平仮名の対応を確かめる学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音節と文字との関係に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)イ）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①身近な言葉を音に分け、音と平仮名の対応を確かめる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

身近な言葉を音に分け、音と平仮名の対応を確かめる。この教材では、身近な語の音と平仮名を対応させた記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

既習の平仮名で表せる身近な語を選び、音に合わせて指を動かす。音の順に文字カードを並べ、実物や絵で語の意味も確認する。想定する難しさは、音の順序と文字の順序を対応させず、見た形だけを写す。評価では、音節と文字との関係に気付いているかを、身近な語の音と平仮名を対応させた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 身近な物の名前を声に出し、音ごとに指を動かして文字と対応させる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○身近な物の名前を声に出し、音ごとに指を動かして文字と対応させる。同じ音を含む語を集め、意味を絵や実物で確かめる。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

音節と文字との関係に気づくことができる。(〔知識及び技能〕(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「聞こえた音と、書かれた文字はどのように対応していますか」 【めあて】身近な言葉を音に分け、音と平仮名の対応を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音が別の言葉にも入っている。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「聞こえた音と、書かれた文字はどのように対応していますか」 身近な物の名前を声に出し、音ごとに指を動かして文字と対応させる。同じ音を含む語を集め、意味を絵や実物で確かめる。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ音が別の言葉にも入っている。 ・聞こえた順に文字を並べたい。	既習の平仮名で表せる身近な語を選び、音に合わせて指を動かす。音の順に文字カードを並べ、実物や絵で語の意味も確認する。 想定する難しさ：音の順序と文字の順序を対応させず、見た形だけを写す。 評価では、音節と文字との関係に気付いているかを、身近な語の音と平仮名を対応させた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 音節と文字との関係に気付いている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 身近な語の音と平仮名を対応させた記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・聞こえた順に文字を並べたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「聞こえた音と、書かれた文字はどのように対応していますか」。中央は、身近な語の音と平仮名を対応させた記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

